

事故多発中につきご注意ください！

ここ最近、自動車事故の報告が非常に多くなっています。最近の傾向としまして、以下のような場所によく事故が起っています。

- ・ 交差点
- ・ 駐車上
- ・ 信号待ち

事故時に落ち着いて対応できるのが理想ですが、ただでさえ事故の衝撃でびっくりしているのに加え、事故現場は日本ではなくアメリカということもあり余計にパニックになってしまうのは避けられないかもしれません。それでも、まずは深呼吸をするなどしてできるだけ落ち着くことが大切です。弊社作成の**安全運転ガイドブック**やウェブサイトにも記載がありますが、改めて以下に事故時の対応をご紹介しますので、ご確認くださいませようお願い致します。

事故現場での対応

①安全第一

けが人がいるか確認。軽度の事故の場合、事故車を安全な場所に移動する。ハザードランプ等を使い二重事故を防ぐ処置をとる。ガソリンが漏れていないか確認し、火災発生に十分気をつける。

②警察に連絡

けが人がいる場合→救急車も合わせて要請。Ambulance/Emergency Medical Care
警察が来るまで現場をできるだけ離れない。

警察の指示に従う。(警察官の名前、警察署名、事故レポートナンバーなどを入手。)

「あやまらない。」「罪を認めない。」→ 様々な要因が事故につながることもあるため、「自分が悪かった」と伝えてしまうことで、相手の過失があったとしても全過失を負うことになりかねません。

③情報交換

1. 運転者の情報(名前・住所・電話番号など) ※可能な限り同乗者情報も入手
 2. 車情報 (ナンバープレート、年式、メーカー、車種、車体の色など)
 3. 保険会社情報 (保険会社名、電話番号、Policy番号、契約者名など)
- ※相手に立ち去られる場合もあるため、車情報はできるだけ早めに記録すること。

④事故状況の記録

1. 事故発生日時、住所、天候、車道の状態など
2. 怪我の説明
3. 事故車の走行速度
4. 現場のスケッチ
5. 現場や事故車の写真を撮る

⑤目撃者情報の収集

目撃者の名前、連絡先、証言を記録する。

ひとまず、現場で上記のような流れで対応頂けたら、あとは弊社までご連絡下さい。営業時間内ですと可能な範囲でお電話でサポートいたします。事故報告はもちろんのこと、保険使用の有無など今後の進め方につきご相談に応じます。

相手の保険会社を使う場合

相手に過失があり、相手の保険会社も特定できている場合は相手の保険会社を使って処理をすることもあります。その場合は、通常お客様から相手の保険会社に事故報告をして頂きます。ただし、それが困難な場合はできる範囲で弊社スタッフがサポートいたします。以下、相手の保険会社を使用する場合の利点・欠点になりますのでご参考下さい。

利点: 事故処理の際に、ご負担金額がない。

欠点: 相手側の保険会社の指示に従うため、事故処理が円滑に進まない事がある。

ロイヤリティグループインシュランス

(豊田通商アメリカ100%子会社)



Loyalty Group Insurance Services, Inc. (LGIS)

3940 Olympic Blvd. Suite250
Erlanger, KY 41018

営業時間 月～金 8am-5pm EST

Phone: 859-817-2300

Fax: 859-283-0138

E-mail: hoken@lgisinc.com

www.lgisinc.com

Volume 2, Issue 10, October 2011

今月の英語

rubberneck 【ラバーネック】

野次馬

(To) admit 【アドミット】

認める

fault 【フォルト】

罪、過失

hit and run

当て逃げ

交通事故の主な原因

1. 不注意運転
Yieldサインなど交通標識の無視、信号無視、わき見(野次馬)運転、携帯電話の使用、死角のチェックを怠る
2. スピードの出しすぎ
3. 居眠り
4. 飲酒運転
5. 悪天候 (大雨、雪、氷など)
6. 悪い道路状態 (障害物、穴など)
7. 動物との接触 (主に鹿)

くれぐれも安全運転に努めて下さい！



お見積もりから保険に関するご質問など
お気軽にご相談下さい！

